

FSCの設立趣旨 土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場のニューフェイス4台を紹介

十和田農場 大倉 聡生



①フォーレイジハーベスター
(STAR MFH4050RC)
1月23日納品



②細断型ロールベラー
(Takakita MR-821)
1月28日納品



③ラップマシーン
(Takakita WM1272A)
2月25日納品



④不耕起汎用ドリル
(GreatPlains 3P606NT)
3月11日納品

十和田農場では今年度4台の作業機を更新、導入しました。

まずはデントコーンを収穫するための作業機を三機種(写真①②③)紹介します。

フォーレイジハーベスター(写真①)はデントコーンを細断し、吹き込み口から排出します。細断型ロールベラー(写真②)はフォーレイジハーベスターから排出されたデントコーンを投入し、圧縮・梱包をします。直径85・90cmのロールを成型することができます。ラップマシーン(写真③)は成型したサイレージをラッピングするために使用します。直径90~120cmまでのロールに対応できます。

次に播種機を紹介します。

不耕起汎用ドリル(写真④)は牧草の播種に使用します。圃場を耕起せずに播種できるため、草地更新を簡単に行うことができます。また播種装置が独立しているため圃場の凹凸に合わせて動き高精度の播種ができます。

4月から順次運用予定ですので、取り扱い方法を理解したうえで壊さないよう慎重に運用していきたいです。



今号のどうぶつ紹介



ホクト サトヤ
(左)北十 (右)里八 (シャロレー種)

前号でご紹介したシャロレー種の名前が、雄は「北十(ホクト)」、雌は「里八(サトヤ)」に決まりました。十和田農場のインスタグラムで募集したところ、60以上の応募があり、その中から「北里」「八雲」「十和田」がうまく融合されたこちらの名前を採用させていただきました。これからも末永く、北十と里八をよろしくお願ひします!

八雲牧場の近況報告

日本短角種 種雄牛の紹介／産直会議 八雲開催

○日本短角種 種雄牛の紹介

八雲牧場では現在、2回（2周期）の人工授精で受胎できなかった繁殖牛は種雄による本交で受胎させていますが、近交係数を高めないためにも数年に一度は種雄の更新を行うようにしています。現在種雄牛候補として管理・調教を行っているのが10か月の石里です。

鼻環を装着してもらい種雄らしい顔つきになりました。

八雲牧場で活躍し終わった種雄は北海道内における日本短角種生産農家などに引き取られ、新たな地で子孫を増やしています。



写真：種雄牛候補 石里 の姿

○産直会議 八雲開催

毎年数回の産直会議が行なわれます。今回は八雲牧場開催で多くの関係者が八雲に集結しました。この会議は生産、流通、販売に関わる取引先がそれぞれの立場からの報告や協議がなされ、それを受けて今後の北里八雲牛の販売方針が決められていきます。牛肉の生産、流通、販売も現在の物価高の影響を少なからず受けています。それでも北里八雲牛は自給飼料での生産であるため、他の輸入穀物を利用しているところに比べればまだまだ影響が少ないほうだと感じています。

また、日常は肉牛の生産・管理を主となる業務としている私たちですが、生産した牛肉の流通や販売の現状と課題を理解することのできる大変貴重な会議です。



写真：産直会議の様子



家畜人工授精所開設

八雲牧場

家畜改良増殖法が改正されたことにより、精液ストローの管理・取り扱いが厳しくなりました。

日本短角種の精液ストローを購入し人工受精を実施している八雲牧場においても授精所開設に向け申請を行ってきましたが、今年の1月ようやくその許可がおり家畜人工授精所が開設されました。



次号の予定と編集後記

ようやく春めいてきたかと思えば、さっさと夏日を記録し、汗ばむ季節がやってきました。十和田の桜もお天気に恵まれ、きれいな姿をたくさんの人に見てもらえたのではないのでしょうか。皆さんも楽しいゴールデンウィークを過ごされたかと思いますが、我が家は見事にインフルエンザで全滅していました。日頃の行いですね。

さて、十和田農場では今年6年ぶりにヤギの分娩があり、元気がかわいらしい鳴き声が飛び交っています。羊の分娩も例年通り完了していますので、親子で放牧地を散策している姿が見られます。新年度の疲れた心を癒しに、ぜひ十和田農場に遊びに来てください！
(編集：岩城)